

## 国際学会のススメ

札幌市医師会  
手稲溪仁会病院

あおやま たけし  
青山 剛

先日、スウェーデンで開催された学会に参加してきました。久々のストックホルムはほぼコロナ禍前と変わらない風景でした。街中での日本人旅行者は少ないものの、学会場では日本からの参加者はそれなりに多く、以前の姿に戻りつつあることを感じました。

振り返ればwebセミナーばかりとなってしまう製薬会社主催の講演会と対照的に、一度はオンラインのみとなった学会の多くがオンデマンド併催もしくは現地開催のみに戻りました。なぜ遥々現地に集まるのか、国際学会に参加する意義を考えてみました。

### 1. 最新の医学知識を学べる

当然、学会の最大の目的です。オンラインでもできそうですが、病院で視聴していると諸方面からinterceptされます。また流したままで席を離れることも少なくありません。現地で席に座ることは強制力となります。

### 2. 人脈を広げられる

直接会って親しくなれば、正式発表では言えない実情を聞くこともできます。国内学会でもできそうですが、それよりは異国の地で心細いもの同士会う方が印象に残るため、日本人同士でもむしろ国際学会の方が親しくなれます。また特に若手の先生で、手術見学・留学を受け入れてくれる国外の施設を見つけたいなら、学会が出会いの第一歩です。

### 3. 仕事のモチベーションとなる

異国の風景、食事でリフレッシュできれば、また戻ってこようと決意を新たにします。そのためには、特に若いうちは演題を出すことが必要で、探究心を持って日々の仕事に励むことが可能になります。

以上は医師としてですが、さらには日本で生活する者として以下の意義もあります。

### 4. 世界の中での日本の特異性を感じられる

日本でしか通用しない常識は少なくありません。世界を見ようとせず「ここは日本だから」という人を散見します。しかし日本以外の国々が経済発展していく中、世界から相手にされない貧困国になりたくなければ、世界の常識に合わせて変化することは必要です。

### 5. 日本人の存在感を高められる

最近ヨーロッパで「ニイハオ」と声を掛けられることが増えるなど周辺諸国の台頭を実感します。日本は世界の国々から一目置かれる存在でありましたが、今後もその地位を維持するためには、外へ出て存在感を示し続けることが必要です。

思いついただけでもこれだけの意義がありました。最近国際学会から遠ざかっている会員の先生がいらっしやいましたら、再び海外へいかがでしょうか？

## 自分のキャリアの節目

北海道大学医師会  
北海道大学病院 呼吸・循環 未来医療創発部門

しみず かおる こ  
清水 薫子

令和5年度より、北海道大学病院 呼吸・循環 未来医療創発研究部門に所属しております。産・学・官の連携・循環による発信ならびに医療・医学への貢献を目指し、日々精進しております。

昨年度までは、北海道大学病院に平成22年度より設置された現在の男女共同参画推進室に籍をおき、職員キャリアサポート、医学部生の授業、他関連機構との連携に従事してまいりました。

職員向けの講演会や保育園・病後児保育施設の管理において、少しでも、職員が働きやすい環境を整えるべく、事務部とともに尽力してまいりました。

そして、医学部生には、がん患者さんのお話を聴いてほしいという強い思いがあり、がん患者さんにご依頼して、患者さんから医療者に望むことをテーマに1コマ授業を担当してきました。

さらに、ダイバーシティ関連の授業として、医師としてのキャリア形成に寄与しうる内容での授業もいただいております。

現在、本学にはダイバーシティ・インクルージョン推進本部が、総長指示のもと、多くの活動を展開しております。医療界のSDGsを考える上でも、医療者が安心して勤務を継続できる環境の整備、相互理解の深化が、必須であります。

本年度からは、呼吸器内科の古田 恵医師が当院男女共同参画推進室の教員として着任しております。

今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

